

I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間：平成30年7月～令和6年3月（5年9月）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

平成30年7月以降認定基本計画に基づき、基本理念「人をつなぐ、地域をつなぐ、未来につなぐ中心市街地」のもとで各事業を実施した。令和2年度から令和4年度にかけては、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業をやむを得ず中断又は延期をしたことや、観光客の動向が大きく変わったこともあり、とりわけイベント系事業と観光事業は計画どおりに事業を進めることができなかった。手法の見直しや工夫を行いながら、影響をできるだけ小さくすることに努めた。

一方で、空き店舗や空き家、空き地を活用して新規に事業をしようとする動きが令和2年10月頃から見られるようになり、飲食店や美容室を中心に活用が進んだ結果、これまで増加傾向にあった地区内の空き店舗数が微減に転じた。

新町ビル跡地開発事業（中津川市ひと・まちテラス建設事業）は、令和3年10月に着工した。建築資材の納品遅延等があり、当初の計画から若干遅れたものの令和5年5月完成し、令和5年7月15日供用開始した。供用開始後は大小さまざまなイベントを積極的に開催し、多くの方に来場していただくことができた。また、普段は高校生の自主学習や公共交通等の待ち合い場所として多く利用され、まちのにぎわい創出に大きく寄与している。

令和4年秋以降、地区内で民間事業者のホテル建設や古民家を改装した飲食店の出店などがあり、ひと・まちテラスの供用開始の効果もあって中心市街地内を訪れる人の数は増加したが、これらの人が地区内を回遊しているとは言い難い状況であり、いかにしてまちなかを回遊してもらえるようにするかが今後の課題である。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

（基準日：毎年度4月1日）（単位：人）

（中心市街地区域）	平成29年度 （計画前年度）	平成30年度 （1年目）	令和元年度 （2年目）	令和2年度 （3年目）	令和3年度 （4年目）	令和4年度 （5年目）	令和5年度 （最終年度）
人口	2,826	2,769	2,714	2,684	2,625	2,581	2,521
人口増減数	▲66	▲57	▲55	▲30	▲59	▲44	▲60
自然増減数	▲29	▲31	▲35	▲43	▲28	▲37	▲45
社会増減数	▲21	▲9	▲16	9	▲34	▲1	▲40
転入者数	55	56	72	64	57	71	81

（資料：中津川市住民基本台帳情報）

※社会増減数には職権で住民登録が抹消された数は含まれていない。そのため、自然増減数と社会増減数の合計は人口増減数と一致しない。

(2) 事業者数

(単位：件)

	平成28年度 (計画前年度)	令和3年度 (4年目)				
市全体	4,047	3,735				
中心市街地	532	445				

(資料：経済センサス活動調査)

(3) 地価

(単位：円/㎡)

	平成29年度 (計画前年度)	平成30年度 (1年目)	令和元年度 (2年目)	令和2年度 (3年目)	令和3年度 (4年目)	令和4年度 (5年目)	令和5年度 (最終年度)
中津川市平均 (商業地)	62,300	62,250	62,250	62,200	61,900	58,800	58,800
太田町2丁目 (商業地)	70,200	70,200	70,200	70,200	69,900	69,900	69,900
昭和町 (住宅地)	37,800	37,800	37,800	38,000	38,100	38,300	38,500

(資料：地価公示)

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)**【進捗・完了状況】**

- ①概ね予定通り進捗・完了した 2 予定通り進捗・完了しなかった

【活性化状況】

- 1 活性化した
②若干活性化した
3 計画策定時と変化なし
4 計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、観光及びイベント関係事業は延期又は中止をせざる得ない状況が続いた中、基幹事業である新町ビル跡地開発事業(ひと・まちテラス建設事業)は、ほぼ予定通り供用開始することができたため「概ね予定通り進捗・完了した」を選択した。

一方で、中心市街地地区の少子高齢化、人口減少、地価下落は続いており、商業環境は依然厳しい状況が続いている。

そのような中、まちづくり会社、商工会議所、市が連携しながら、中心市街地内の空き店舗対策のための現況調査、空き店舗と創業希望者のマッチング、空き店舗活用に関する補助制度の創設、創業支援(事業計画書の作成やセミナーの開催)を実施し、創業希望者を包括的に支援した結果、地域内にあった空き店舗数は令和元年度の24件をピークに減少に転じるなど、効果はあった。

また、ひと・まちテラスが供用開始されてから、この施設を活用したイベント等の集客事業を積極的に進めたところ、中心市街地内の歩行者通行量、とりわけひと・まちテラスに近い蔦勘商店前の通行量が大幅に回復に転じた。周辺の商店街からも「通りに人が増えた実感がある」と声が寄せられた。しかし、他の調査地点はほぼ横ばいとなっており、回遊しているとは言い難い。これらを考慮し「若干活性化した」を選択した。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- 1 活性化した
- ② 若干活性化した
- 3 計画策定時と変化なし
- 4 計画策定時より悪化

【詳細を記載】

中心市街地活性化の拠点となる待望の施設、「中津川市ひと・まちテラス」は概ね予定通り完成し、供用開始以来、多くの方に来訪いただいている。民間事業者が建設した宿泊施設の効果も相まって、中心市街地内を訪れる人は増加した。

一方で、いくつかの事業が未着手、未完了又は中止となった。新型コロナウイルス感染症の影響のため、やむを得なかった事情もあるが、早めに別の策を講じるなどの動きが感じられず、計画実現に向けての甘さを感じた。さらに、次期計画に相当するまちづくり計画「つかう・中津川（ビジョン・アクションプラン）」を策定されたようだが、この基本計画の検証を行ってから新しい計画策定することが筋だと考える。できなかった事業はもちろん、継続実施中の事業も改めて検証し、今後の計画にどのようにつなげていくかを改めて検討してほしい。目標指標についても、例えば新規出店者数は増えているが、逆に閉じた店もある。どれくらい閉めた店あったかなどもしっかりと調査し、次の計画に活かすこと。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- 1 活性化した
- 2 若干活性化した
- ③ 計画策定時と変化なし
- 4 計画策定時より悪化

【詳細を記載】

中津川市の全住民から無作為に抽出した 2500 人を対象に、市政全般を問う意識調査のうち、商業振興及び中心市街地活性化施策に対し、満足度と必要性を 4 段階で回答を求めた質問について、計画策定前（平成 25 年度実施）と計画実施後（令和 6 年度実施・速報値）を比較・分析を行った。

満足度については、とても満足との回答を 10 点、どちらかという満足との回答を 5 点、どちらかという不満との回答を -5 点、とても不満との回答を -10 点とし、その合計を有効回答総数で割った点数を比較すると、平成 25 年度は -3.61 点、令和 6 年度は -2.92 点となり、点数の改善は見られたものの、どちらかという不満又はとても不満と回答された割合は約 70% と高い水準にとどまったままで、大きな変化は見られなかった。

必要性についても満足度と同様な方法で得た点数の比較を行ったが、平成 25 年度は 6.58 点、令和 6 年度は 6.65 点となり、ほぼ横ばいとなった。

自由意見には大型商業施設や娯楽施設の誘致を希望するものが相変わらず多く見受けられ、中心市街地活性化に向けた方針と市民意識に大きな乖離がある状況は続いている。今後はこの意識の乖離をいかに小さくしていくかが課題である。

6. 今後の取組

本計画の基幹事業である「新町ビル跡地開発事業（ひと・まちテラス建設事業）」の効果もあり、中心市街地を訪れる人は増えたものの、まちを回遊している様子がうかがえない。今後はこの「ひと・まちテラス」を拠点に、地区内でのイベント開催や新たなコンテンツを増やすなど、歩いて中心市街地を回りたくなる仕掛けが必要だと考えている。

こうした事情を踏まえて、ひと・まちテラスをはじめとする中心市街地内に現存する様々な「まちの資源」を活用することで、地域の価値を高めていくまちづくり計画「つかう中津川」を令和6年3月に策定した。今後はこの計画に基づき、官民が連携して取り組んでいく。

計画は10年間の長期の計画となることから、様々な変化やニーズに合った事業を実施できるよう、概ね2年の短期間で進捗確認と、事業の見直しを行い、着実に実現を目指していく。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から目標値までの幅の8割ライン	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
商業の活性化による吸引力の強化	新規出店者数	31 店舗 (H24～H29 累計)	50 店舗 (R5 までの 累計)	47 店舗	56 店舗	R6.3	A
観光客を惹きつける資源活用の強化	特定施設等観光客入込数	123,000 人/年 (H28)	149,200 人/年 (R5)	143,960 人/年	96,303 人/年	R6.3	C
市民の居場所や活動の場所としての魅力の強化	都市福利施設利用者数	322,566 人/年 (H28)	430,000 人/年 (R5)	408,513 人/年	414,543 人/年	R6.3	B1
	歩行者通行量	4,525 人/日 (H29)	5,062 人/日 (R5)	4,954 人/日	5,103 人/日	R5.10	A

< 達成状況の分類 >

A：目標達成、B1：概ね目標達成（基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている）、B2：基準値より改善（基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない）、C：基準値に及ばない

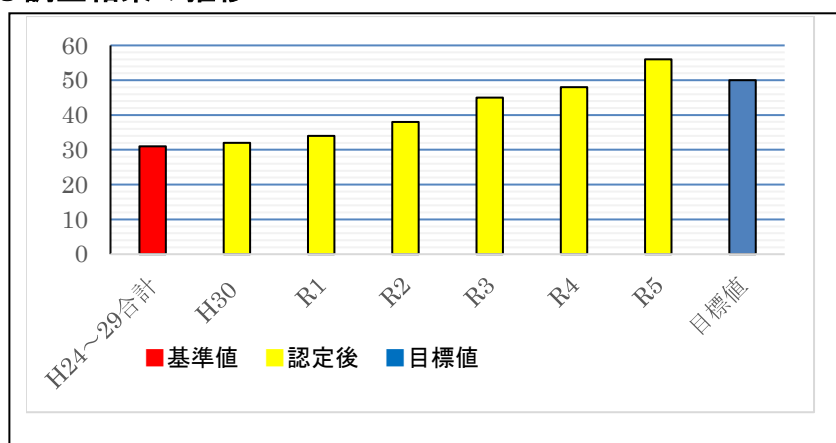
※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、小文字にして下さい。（注：小文字のa、b1、b2、cは下線を引いて下さい）

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

（1）「新規出店者数」（目標の達成状況【A】）

※目標値設定の考え方は認定基本計画P67参照

●調査結果の推移



年	(店舗数)
H24～29 合計	31 (基準値)
H30	32
R1	34
R2	38
R3	45
R4	48
R5	56
基準値 +H30～R5 合計	50 (目標値)

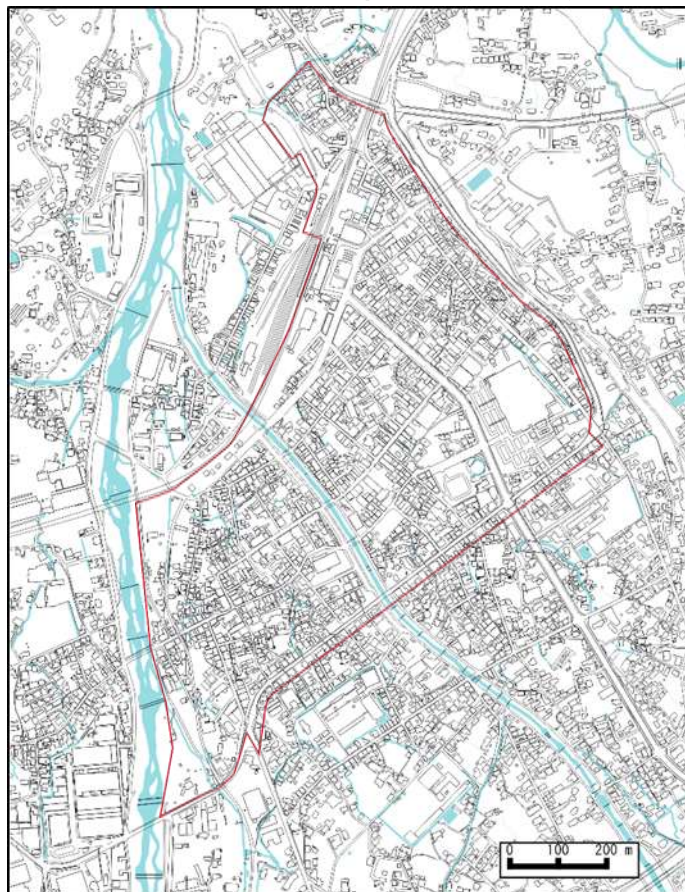
※調査方法：市及び商工会議所が関わった支援の結果、出店に結びついた者の集計

※調査月：毎年3月末

※調査主体：中津川市、中津川商工会議所

※調査対象：中心市街地での出店者

●調査地点図 （中心市街地全域が対象）



（単位：件）

	平成29年度 (計画前年度)	平成30年度 (1年目)	令和元年度 (2年目)	令和2年度 (3年目)	令和3年度 (4年目)	令和4年度 (5年目)	令和5年度 (最終年)
空き店舗対策	3	0	0	0	1	0	0
空き店舗活用 支援	3	1	2	4	5	3	8
歴史的資産を 活用した町家 再生	0	0	0	0	0	0	0
トライアルシ ョップ	0	0	0	0	1	0	0
合計	6	1	2	4	7	3	8

＜分析内容＞

まちづくり会社が管理する「空き店舗データベース」を更新するとともに、商工会議所と連携し、創業希望者とのマッチングに注力した。ひと・まちテラスの供用開始やインバウンドの増加などの効果もあり、中心市街地の歩行者数が増加するにつれて、エリア内で新規に出店しようとする動きが活発化し、単年度としても8件の出店があり、目標である累計50件を上回ることができた。

歴史的資産を活用した町家再生事業は、令和4年度下半期より民間事業者の自主事業として2件動きがみられ、動向を見守りながら必要な支援策の検討を行っていたが、内1件は自主事業として実施、もう1件も自主事業として実施見込みとなった。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 空き店舗対策事業（まちづくり会社・民間団体）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	中心市街地に存在する空き店舗や所有者の調査を行いながら、所有者と出店希望者を結び付ける。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】12件（累計）（空き店舗活用支援事業と合わせた数値） 【最新値】24件（累計）（空き店舗活用支援事業と合わせた数値） （目標達成）
達成した理由	令和元年度に実施した空き家等現況調査を基に作成した地図とデータベースを活用し、出店希望者のニーズに合わせた情報提供ができるようにした。令和3年度からは毎年データベースを更新し、最新の情報を保つようにして、創業希望者と物件をマッチングできる環境を整えた。
計画終了後の状況及び事業効果	令和元年度の空き店舗数は24件だったが、以降は減少に転じ、令和5年度は16件となった。
事業の今後について	データベースは毎年更新を行い、マッチングは今後も継続して実施する。また、実際の空き物件を見て回る「空き店舗ツアー」などの企画も継続して実施していく。

②. 空き店舗活用支援事業（中津川市）

事業実施期間	平成29年度～令和5年度【実施中】
事業概要	空き店舗を活用して出店する場合に、改修費用等の1/2を上限として最大50万円を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度～令和4年度） デジタル田園都市国家構想交付金（内閣府）（令和5年度） 〔認定基本計画：地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度～令和5年度）〕
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】12件（累計）（空き店舗活用支援事業と合わせた数値） 【最新値】24件（累計）（空き店舗活用支援事業と合わせた数値） （目標達成）
達成した理由	創業時のイニシャルコストの一部を支援し、創業しやすい環境を整えた。商工会議所、まちづくり会社と連携し、創業計画策定、物件のマッチング、補助制度の活用、融資の相談までの一連の支援ができるようにしたことも効果があった。
計画終了後の状況及び事業効果	令和元年度の空き店舗数は24件だったが、以降は減少に転じ、令和5年度は16件となった。
事業の今後について	令和2年度に創設した「創業・第2創業支援補助金」も合わせて活用し、創業支援と合わせて空き店舗対策を行う。

③. 歴史的資産を活用した町家再生事業（まちづくり会社・中津川市・商工会議所・商店街ほか）

事業実施期間	平成29年度～令和5年度【実施中】
事業概要	官民が連携して中津川宿に現存する歴史的建築物を改修し、ゲストハウスや飲食店などとして活用することで、滞在、滞留する観光客数の増加を図る。
国の支援措置名及び	地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略

び支援期間	事業)のうち調査事業(経済産業省)(平成30年度)
事業目標値・最新値 及び達成状況	【目標値】5件(累計) 【最新値】0件(累計)(未達成)
達成した理由	平成30年度にニーズ調査を実施し、古民家を活用したカフェの需要が高いことを把握し、令和2年度より物件選定に向けた調査を実施することとしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中断した。令和5年度より、民間事業者動きがあり、動向を見守ったが、民間事業者の自己資金調達の目途が立ったため、自主事業となった。
計画終了後の状況 及び事業効果	官民が連携した事業にはならなかったものの、中心市街地内に新たなコンテンツがもたらされた。
事業の今後について	民間事業者に、引き続き古民家を活用して出店する動きがみられ、動向を見守りながら、必要な支援を行うこととしている。

④. トライアルショップ事業(まちづくり会社)

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【実施中】
事業概要	まちづくり会社が休業日の店舗等を借り受けてトライアルショップとして活用することで、新たな出店希望者の掘り起こしと新規出店に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値 及び達成状況	【目標値】2件(累計) 【最新値】1件(累計)(未達成)
達成した理由	まちづくり会社の旧事務所を改装し、レンタルオフィス(トライアル企業として短期間のレンタルも可能)として小規模事業者に貸し出しを令和4年2月より開始した。もう1件、トライアルショップにできそうな空き店舗を探したが、場所や家賃などの条件で折り合いがつかず、実現には至らなかった。
計画終了後の状況 及び事業効果	レンタルオフィスとして6区画を設置し、現在5区画が入居している。残り1区画も引き合いがある状況であり、新たに事業を始めようとする方を後押しすることができた。
事業の今後について	レンタルオフィスの需要があることがわかり、引き続き物件を探す。民間事業者に空き物件を改装してレンタルオフィスにしようとする動きもあるため、必要に応じて支援を行うこととしている。

●今後の対策

中心市街地領域内外を問わず、新たに事業を始めたいという動きは続いており、市、商工会議所、まちづくり会社が引き続き連携して創業開始から事業定着までを一連で支援できる制度を今後検討する。

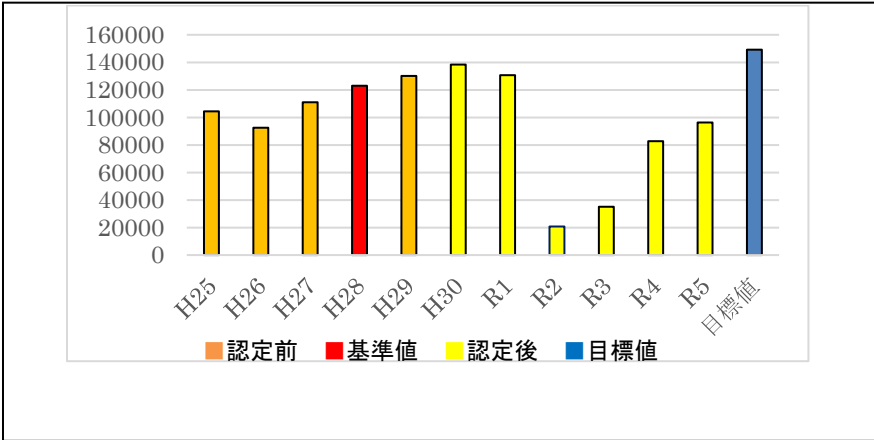
創業を支援する制度は引き続き実施するとともに、事業定着するための新たな制度の検討していく。

民間の動きに対しては、基本は民間事業者の自主事業とするが、市は必要に応じたサポートを行い、空き店舗等の活用を促進させるとともに、新たなコンテンツを誘致し活性化を図っていく。

（２）「特定施設等観光客入込数」（目標の達成状況【c】）

※目標設定の考え方は認定基本計画 P. 68～P. 69 参照

●調査結果の推移



年	(人/年)
H25	104,400
H26	92,500
H27	111,000
H28	123,000 (基準値)
H29	130,130
H30	138,378
R1	130,677
R2	20,749
R3	35,100
R4	82,724
R5	96,303
R5	149,200 (目標値)

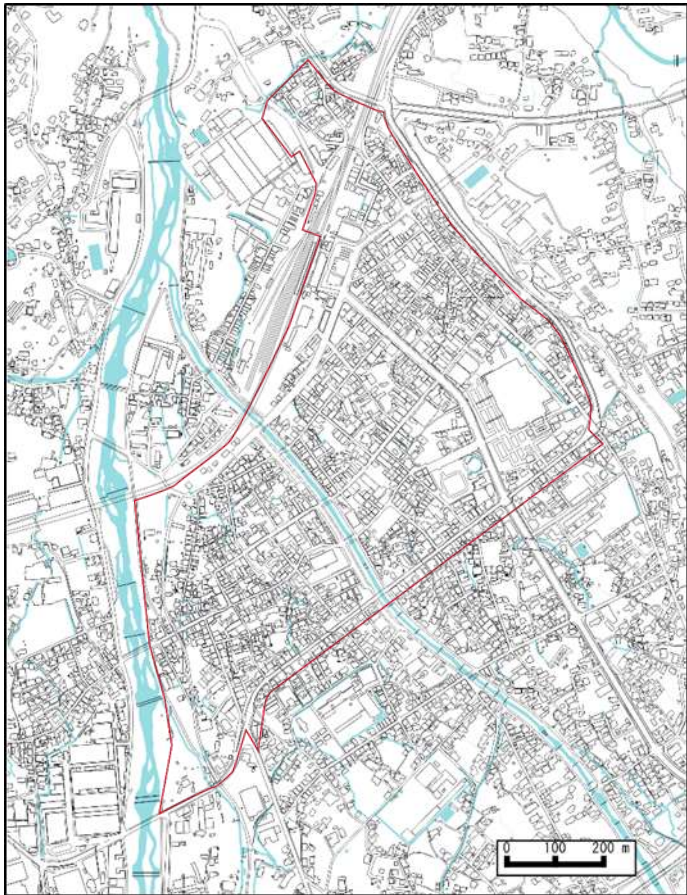
※調査方法： 対象イベント及び施設への年間来場者数の合計

※調 査 月： 毎月 1 回

※調査主体： 中津川市

※調査対象： 「春・秋の中山道まつり」、「中山道中津川宿六斎市事業」、「中山道歴史資料館」、「まちなか歴史発見散歩事業」、「地域文化資源を活用した体験型観光推進事業」、「間家大正の蔵活用公開事業」、「歴史的資産を活用した町家再生事業」

●調査地点図…（中心市街地の全域が対象）



(単位：人)							
	平成29年度 (計画前年度)	平成30年度 (1年目)	令和元年度 (2年目)	令和2年度 (3年目)	令和3年度 (4年目)	令和4年度 (5年目)	令和5年度 (最終年度)
春・秋の中山道まつり	40,000	42,000	47,000	8,000	9,500	15,000	15,000
中山道中津川六斎市	61,000	59,000	45,500	5,000	16,000	51,500	65,000
中山道歴史史料館	29,130	35,862	36,217	7,198	9,082	15,392	14,956
まちなか歴史発見散歩事業		95	52	0	0	0	24
地域文化資源を活用した体験型観光事業		0	0	0	0	0	0
間家大正の蔵公開事業		1,421	1,908	551	518	832	1,323
歴史的資産を活用した町家再生		0	0	0	0	0	0
合計	130,130	138,378	130,677	20,749	35,100	82,724	96,303

＜分析内容＞

新型コロナウイルス感染症が第5類に移行され、各種イベントは感染症発生前の状況に戻して開催したものの、影響は強く残っており、六斎市を除き来場者数は元に戻らなかった。春の中山道まつりは悪天候のため中止となったこと、中山道歴史資料館と間家大正の蔵は管理体制の見直しにより営業日が以前より減少したことが来場者数に影響したと思われる、基準値を下回ることとなった。

六斎市事業は集客のために創意工夫をして開催した結果、集客数増加に着実に繋がっており、今後も引き続き実施していく。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 春・秋の中山道まつり（六斎市実行委員会・中津川商店街連盟）

事業実施期間	平成20年度～令和5年度【実施中】
事業概要	中津川市内の中山道で行う、商店街が中心となった祭り。商店街が趣向を凝らしたイベントを実施し、集客を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】44,000人 【最新値】15,000人（未達成）
達成した（出来なかった）理由	予定していた春の中山道まつりが荒天のため中止となったことと、秋の中山道まつりも、新型コロナウイルス感染症発症前の水準に戻らなかった。感染症の影響が強く残っているものと推測している。
計画終了後の状況及び事業効果	六斎市とともに、長年にわたり開催した実績と、新型コロナウイルス感染症発生時も、できる範囲で開催し続けた効果もあり、中心市街地内の集客イベントとして認知された。
事業の今後について	引き続き、独自のイベントを企画・広報し、市外からの観光客を取り込むことでにぎわいを増加させる。周辺地区や民間イベントとの連携をさらに強化し、相乗効果を生むことでさらに集客力を高めていく。

②. 中山道中津川宿六斎市事業（六斎市実行委員会・中津川商店街連盟）

事業実施期間	平成20年度～令和5年度【実施中】
事業概要	江戸時代に中津川宿で開かれていた六斎市を、月に1回定期的に開催する。各店舗の出店と、毎回異なるイベントの開催により集客を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】64,900人 【最新値】65,000人（目標達成）
達成した（出来なかった）理由	市内外を問わず多くの方に来場していただけるよう、季節に合わせたイベント開催や、スタンプラリーの景品の変更、バラエティに富んだお店に出店していただけるよう出店条件の見直しを行うなどの成果が出たものと考えている。
計画終了後の状況及び事業効果	春・秋の中山道まつりとともに、長年にわたり開催した実績と、新型コロナウイルス感染症発生時も、できる範囲で開催し続けた効果もあり、中心市街地内の集客イベントとして認知された。
事業の今後について	引き続き、独自のイベントを企画・広報し、市外からの観光客を取り込むことでにぎわいを増加させる。将来はこれら独自イベントの運営事業者が自主的に集客イベントを開催できるよう、制度の検討をしていく。

③. まちなか歴史発見散歩事業（まちづくり会社・中津川市）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	まちなかの歴史スポットをガイドとともに巡る歴史散策小ツアーを定期開催し、まちなかを回遊する観光客の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】360人 【最新値】24人（未達成）
達成した（出来なかった）理由	定員を上回る申し込みがある人気イベントではあるが、ガイドは2人しかいない状況のため、受入れできる人員の拡大と後継者育成を目的に新たなガイドの育成を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により事業をやむを得ず中止したため、育成ができなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	ガイドの語り口調が好評で、開催すると毎回定員を上回る申し込みをいただいた。まちなかに歴史的な魅力が多く存在することを広めることができた。
事業の今後について	事業は引き続き開催するとともに、ガイド育成を再開する。また、観光資源として活用できるよう、案内内容を看板やサイトに掲載することも、あわせて検討する。

④. 地域文化資源を活用した体験型観光推進事業（中津川商店街連盟・まちづくり会社）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【未】
事業概要	まちづくり会社と商店街が連携し、インバウンドを対象にした地域の伝統や文化に触れて体験するツアーを実施し、商店街のにぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業目標値・最新値 及び達成状況	【目標値】120人 【最新値】0人（事業中止）
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症の影響によりインバウンドの動向が変わり、事業を中止した。
計画終了後の状況 及び事業効果	地酒の試飲以外の体験型観光事業の設定がなかったため、インバウンドを対象とする新たな事業の検討を行ったものの、採算性の問題から事業化することができなかった。新型コロナウイルス感染症を期に事業を仕切りなおすこととした。
事業の今後について	観光事業として定着することが必要であると考え、採算性が見込める事業として、今後検討や検証を行い、事業化を目指す。

⑤. 間家大正の蔵活用公開事業（中津川市）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【実施中】
事業概要	新たな観光スポットとするため、施設を改修、公開する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値 及び達成状況	【目標値】5,185人 【最新値】1,323人（未達成）
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、公開中止及び公開時間の短縮を行った。5類移行後も管理人の賃金体系の見直しがあり、以前より公開日数が減った。
計画終了後の状況 及び事業効果	建物自体は文化財の指定があり、大きく手を加えることはできないが、中庭でカフェを出店することで集客につながることが判った。
事業の今後について	六斎市などの集客イベントに合わせてカフェを出店するなど集客するとともに、まちの魅力のひとつとして認知度の向上を目指す。

⑥. 歴史的資産を活用した町家再生事業（まちづくり会社・中津川市・商工会議所・商店街ほか）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	官民が連携して中津川宿に現存する歴史的建築物を改修し、ゲストハウスや飲食店などとして活用することで、滞在、滞留する観光客数の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち調査事業（経済産業省）（平成30年度）
事業目標値・最新値 及び達成状況	【目標値】8,568人 【最新値】0人（未達成）
達成した（出来なかった）理由	平成30年に活用方法についての調査を行い、その結果に基づき不動産オーナーとの交渉を行うが難航した。新型コロナウイルス感染症が発生し中断。その後、民間事業者動きがあり、動向を見守っていたが、支援を受けずに単独で実施した。
計画終了後の状況 及び事業効果	民間事業者の単独事業として1件、新たな飲食店が開店した。
事業の今後について	民間事業者に新たな動きがあり、動向を見守りながら支援が必要な場合は支援を行うことで、出店を目指す。

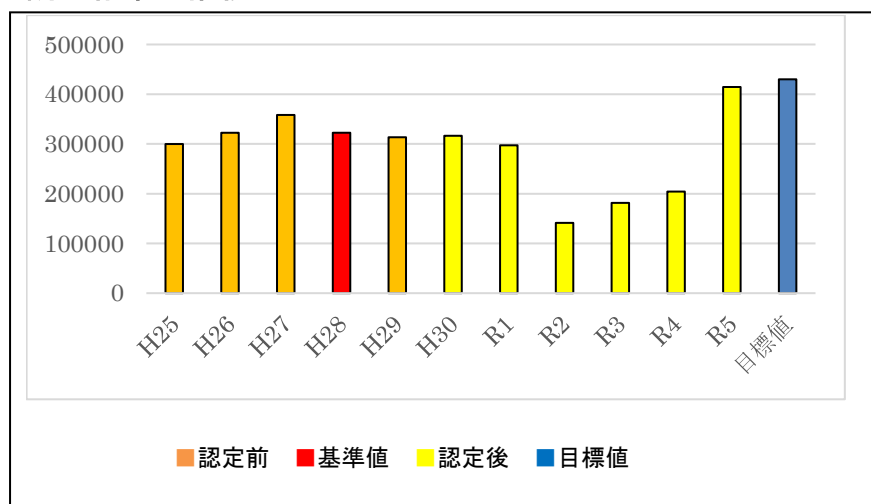
●今後の対策

春・秋の中山道まつりと中山道中津川宿六斎市は、まちなかの定期イベントとして定着しており、今後も創意工夫をしながら開催を継続する。中心市街地で観光が事業として成り立つよう、観光資源の認知度の向上や、採算性を含めた内容の検討・検証を重ね、早期に定着を目指す。町家再生事業は、現状民間投資が必要であり、それをサポートすることで協働して事業を進めていく。

（３）「都市福利施設利用者数」（目標の達成状況【B1】）

※目標設定の考え方は認定基本計画P. 70～P. 72 参照

●調査結果の推移



年	(人/年)
H25	299,877
H26	322,501
H27	358,343
H28	322,566 (基準値)
H29	313,494
H30	316,463
R1	297,282
R2	141,351
R3	181,544
R4	204,280
R5	414,543
R5	430,000 (目標値)

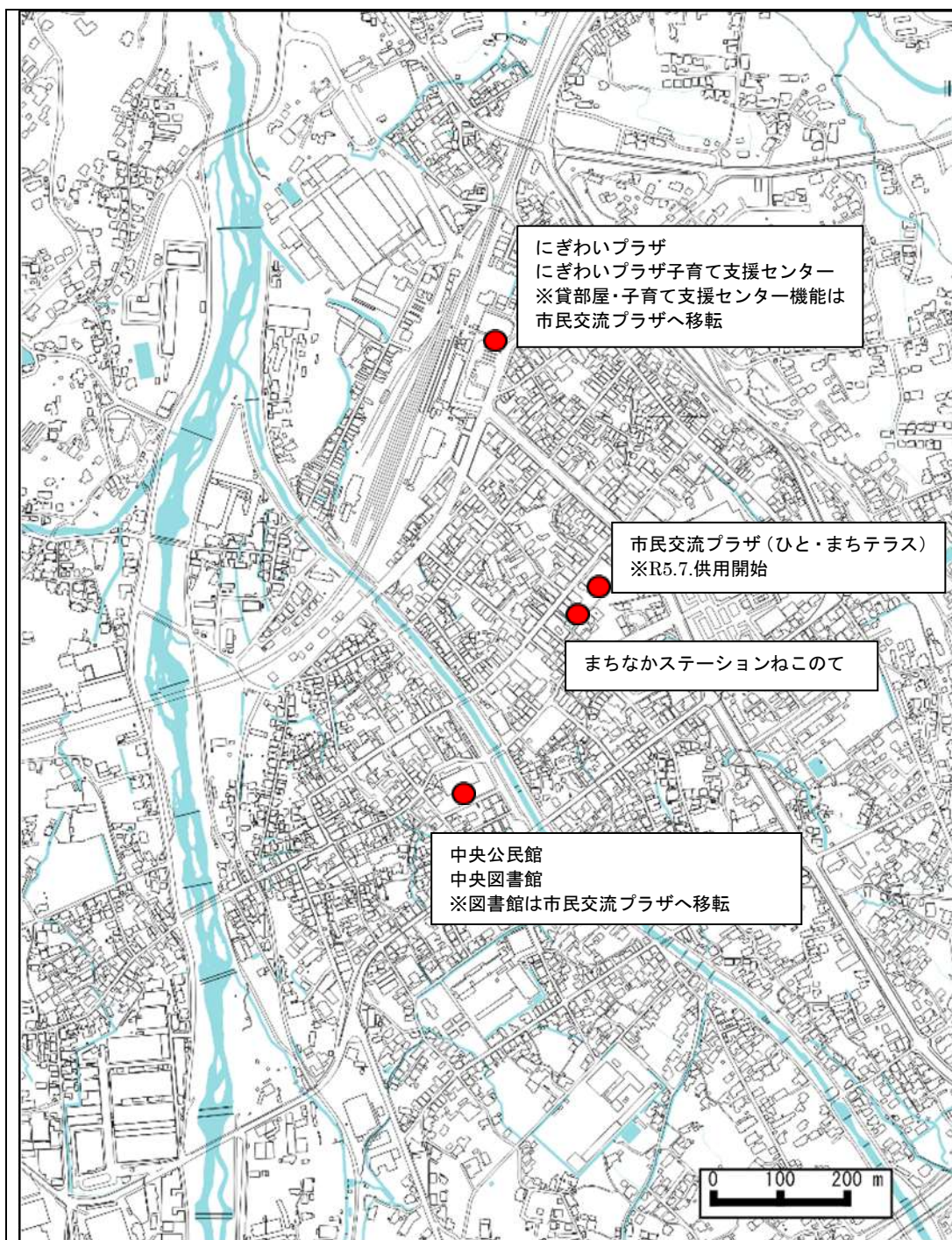
※調査方法：対象施設の年間利用者数を合計

※調査月：毎年3月末

※調査主体：中津川市

※調査対象：「にぎわいプラザ（貸部屋）」、「にぎわいプラザ子育て支援センター」、「中央公民館（貸部屋）」、「中央図書館」「まちなかステーションねこのて」

●調査地点図



(単位：人)

	平成29年度 (計画前年度)	平成30年度 (1年目)	令和元年度 (2年目)	令和2年度 (3年目)	令和3年度 (4年目)	令和4年度 (5年目)	令和5年度 (最終年度)
にぎわいプラザ (貸部屋)	55,037	54,313	51,504	7,934	18,448	23,281	12,349
にぎわいプラザ 子育て支援センター	8,941	8,031	7,764	4,406	3,942	4,546	1,082
中央公民館 (貸部屋)	82,389	88,715	77,033	36,977	45,864	62,907	59,164
中央図書館	163,941	162,348	157,756	89,900	111,269	111,610	23,631
まちなかステーションねこのて	3,186	3,056	3,225	2,134	2,021	1,936	1,736
市民交流プラザ (図書館・子育て支援センター・貸部屋)							316,581
合計	313,494	316,463	297,282	141,351	181,544	204,280	414,543

<分析内容>

市民交流プラザ「ひと・まちテラス」が令和5年7月に供用開始し、にぎわいプラザ貸部屋機能、子育て支援センター、中央図書館が移転した。

新型コロナウイルスが第5類に移行され、以前と同じ条件で利用ができるようになったものの、にぎわいプラザ、中央公民館は施設の老朽化を起因とする不具合が発生したため、利用抑止していたことや、中央図書館は移転準備のため、約1ヶ月閉鎖をしたことが影響し、目標を若干下回る結果となった。

まちなかステーションねこのては、「ひと・まちテラス」が完成しその機能が補完されたことに伴い利用者数は減少した。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 新町ビル跡地開発事業【子育て支援機能】(中津川市)

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【済】 [認定基本計画：令和元年度～令和4年度]
事業概要	子育て支援、観光案内機能等を持ち合わせた複合的都市福利施設の整備を行い、まちなかのにぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業(国土交通省)(令和2年度～令和4年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】18,000人(子育て支援機能分) 【最新値】18,022人(子育て支援機能分)(目標達成)
達成した(出来なかった)理由	にぎわいプラザから、市民交流プラザ「ひと・まちテラス」内に移転。令和5年7月に供用開始した。駐車場を整備したことで新しい施設の効果もあり、目標どおり利用者が増えた。
計画終了後の状況及び事業効果	市民交流プラザのテーマのひとつである「子育て」のメインコンテンツとして定着した。
事業の今後について	市民交流プラザのテーマのひとつである「子育て」のメインコンテンツであり、事業を継続してさらなる認知度の向上を目指す。

②. 新町ビル跡地開発事業【図書館機能】(中津川市)

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【済】 [認定基本計画：令和元年度～令和4年度]
--------	--

事業概要	子育て支援、観光案内機能等を持ち合わせた複合的都市福利施設の整備を行い、まちなかのにぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和２年度～令和４年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】 91,439 人（図書館機能分） 【最新値】 225,531 人（図書館機能分）（目標達成）
達成した（出来なかった）理由	にぎわいプラザから、市民交流プラザ「ひと・まちテラス」内に移転。令和５年７月に供用開始した。旧施設と比較して空調等の設備環境、蔵書数が大幅に改善されたことや、場所も大型商業施設や高等学校の近くになった効果があり、目標を大きく上回る方が来館された。
計画終了後の状況及び事業効果	市民交流プラザのテーマのひとつである「学び」のメインコンテンツとして定着した。
事業の今後について	市民交流プラザのテーマのひとつである「学び」のメインコンテンツであり、事業を継続してさらなる認知度の向上を目指すとともに、利用しやすい環境を整え、学生等が施設に立ち寄る機会を増やし、活性化につなげる。

③. まちなかステーションねこのて事業（中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成２７年度～令和５年度【済】
事業概要	親子を対象にした飲食の提供、母親同士のコミュニケーションの場を提供し、子育て支援の拠点となる事業である。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】 4,680 人 【最新値】 1,736 人（未達成）
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症の発生を期に利用者が大きく減少し、その後も元に戻らなかった。また、建設された市民交流プラザ「ひと・まちテラス」にほど近い場所にあり、その供用開始とともに子育て支援機能が補完されたため、利用者が伸び悩んだ。
計画終了後の状況及び事業効果	子育て中の親子が安心して利用できるよう、授乳スペースやおむつ交換台を備えたトイレがある軽食店としての役割は終えたと判断し、令和６年３月をもって閉店した。
事業の今後について	中心市街地内の人がもっとも集まる場所にあるため、新たな活用方法を検討する。

④. 新町ビル跡地開発事業【貸施設機能】（中津川市）

事業実施期間	令和元年度～令和５年度【済】 〔認定基本計画：令和元年度～令和４年度〕
事業概要	子育て支援、観光案内機能等を持ち合わせた複合的都市福利施設の整備を行い、まちなかのにぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和２年度～令和４年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】 58,976 人（貸施設機能分） 【最新値】 73,028 人（目標達成）
達成した（出来なかった）理由	建築資材の調達遅れ等があったものの、予定どおり開始することができた。近くにある行政施設はいずれも昭和５０年代の建設のため、

	最新の設備を備えたこの施設に利用者が集中した。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地のにぎわい創出の拠点施設が新たに建設されたことにより、中心市街地を訪れる人員増加につながった。
事業の今後について	この施設をにぎわい創出の拠点としてその機能を果たすべく、集客イベント開催や新たなコンテンツの誘致をするとともに、ここからまちなかを歩いて回る仕組みを作り、まちを回遊することで、建物周辺からエリア全体のにぎわい創出を目指す。

⑤. にぎわいプラザ活用促進事業（中津川市）

事業実施期間	平成20年度～令和5年度【済】 〔認定基本計画：平成30年度～令和5年度〕
事業概要	様々な用途で使える会議室、個展やイベント等が開催できる展示スペース、オフィススペース等を提供する。市民や団体が利用することで駅前のにぎわいが創出される。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】-人 【最新値】12,349人
達成した（出来なかった）理由	換気機能を十分に確保できない地下会議室を、新型コロナウイルス感染症の発生を期に貸出しを取りやめたため、年間55,000人程度あった利用者が半数以下に落ち込んだ。
計画終了後の状況及び事業効果	市民交流プラザ「ひと・まちテラス」の完成とともにその機能を移転し、役目を終えた。
事業の今後について	建物の老朽化が著しく、令和8年度を目途に用途廃止する。用途廃止後の活用方法について、令和6年度より検討を開始する。

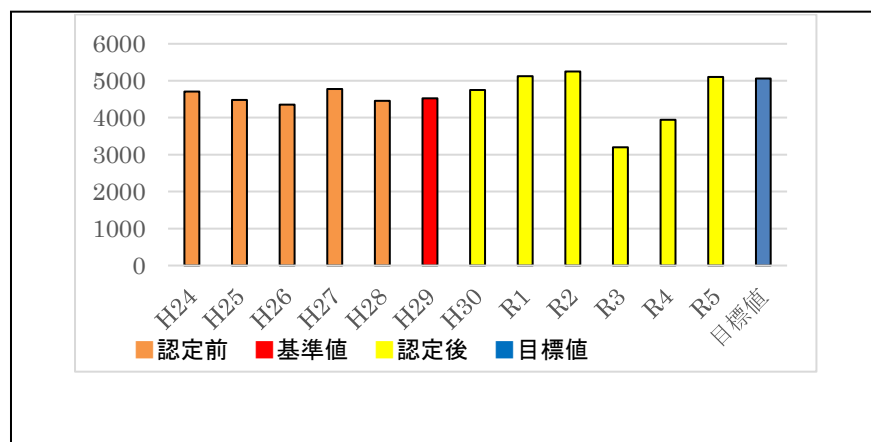
●今後の対策

中心市街地の新たな活動拠点となる「ひと・まちテラス」が完成し、供用開始以来約31万人が来場されるなど非常に大きな効果を生むことができた。この効果を活用し、さらなる機能の充実と、周辺へ効果を波及させるために、ここから歩いて中心市街地を回る仕組みを構築することが必要と考えている。

(4)「歩行者通行量」(目標の達成状況【A】)

※目標設定の考え方は認定基本計画 P. 73～P. 74 参照

●調査結果の推移



年	(人/日)
H24	4,708
H25	4,481
H26	4,354
H27	4,777
H28	4,457
H29	4,525
	(基準値)
H30	4,750
R1	5,124
R2	5,251
R3	3,200
R4	3,944
R5	5,103
R5	5,062
	(目標値)

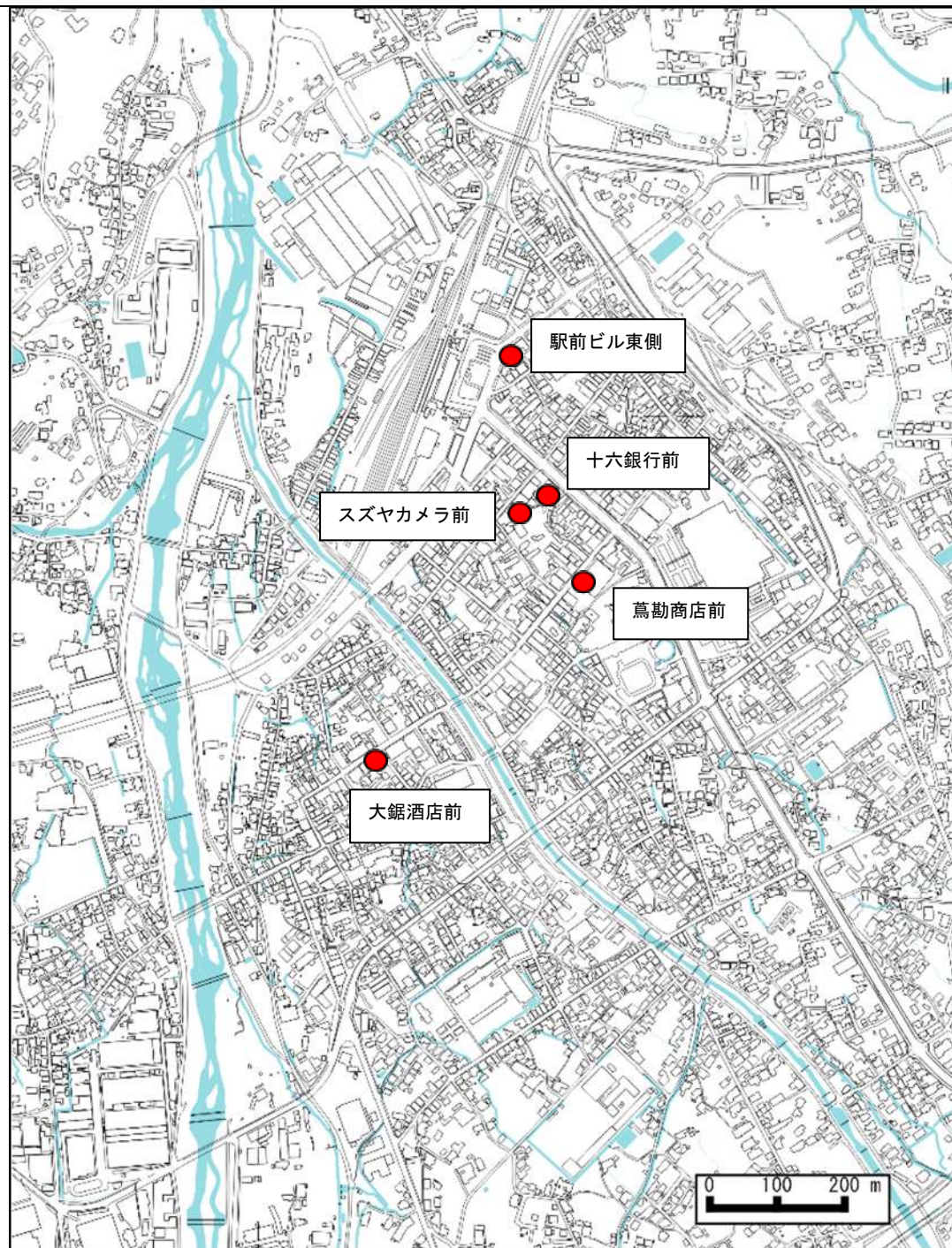
※調査方法：実質測定値

※調査月：毎年9月末(平日)

※調査主体：中津川市

※調査対象：中心市街地内5ヶ所(蔦勘商店前、スズヤカメラ前、十六銀行前、駅前ビル東側、大鋸酒店前)を通行する歩行者

●調査地点図



(単位：人)

	平成 29 年 度 (計画前年 度)	平成 30 年 度 (1 年目)	令和元 年 度 (2 年目)	令和 2 年 度 (3 年目)	令和 3 年 度 (4 年目)	令和 4 年 度 (5 年目)	令和 5 年 度 (最終年 度)
鳶勘商店前	654	555	582	498	512	598	1,621
スズヤカメラ前	481	410	412	396	313	349	363
十六銀行前	1,468	1,608	1,769	1,527	1,240	1,609	1,498
駅前ビル東側	1,540	1,953	2,052	2,517	914	1,072	1,257
大鋸酒店前	382	224	309	313	221	316	364
合計	4,525	4,750	5,124	5,251	3,200	3,944	5,103

＜分析内容＞

市民交流プラザ「ひと・まちテラス」が完成したことにより、施設前の調査地点「葛勘前」の歩行者数が倍以上に増え、目標水準を上回った。

しかし、このほかの地点では前年とほぼ同じ水準にとどまっており、この「ひと・まちテラス」などピンポイントで人は来ているものの、回遊していないことが伺える。

「ひと・まちテラス」を起点として、まちなかへ歩いてもらうことができるようにすることが今後の課題である。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 新町ビル跡地開発事業（中津川市）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【済】 [認定基本計画：令和元年度～令和4年度]
事業概要	子育て支援、観光案内機能等を持ち合わせた複合的都市福利施設（ひと・まちテラス）整備を行い、まちなかのにぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和2年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】194人 【最新値】231人（目標達成）
達成した（出来なかった）理由	建物は令和5年7月に供用開始した。通りに面したスペースを活用した大小さまざまなイベントを開催し、立ち寄っていただけるよう努めた。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地のにぎわい創出の拠点施設が新たに建設され、歩いて施設を訪れる方も増加した。
事業の今後について	集客や歩行者増加につながるイベントは今後も継続して実施するとともに、この施設から他の場所に歩いて行くための拠点となるような仕組みを構築する。

②. 統一案内サイン整備事業（中津川市）

事業実施期間	平成30年度～令和4年度【未】 [認定基本計画：平成30年度～令和5年度]
事業概要	中津川駅前から中山道エリアに至るまでの案内機能を充実させることで、観光客をまちなかへ誘導し回遊性を高める。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】15人 【最新値】0人（事業未着手）
達成した（出来なかった）理由	令和2年度から事業着手の予定であったが、新型コロナウイルス感染症のため事業を中断。感染症の影響が長期にわたり、インバウンドの動向が変わったことから、令和4年度に事業そのものを根本的に見直し、今期の実施は見送ることとした。
計画終了後の状況及び事業効果	事業未着手のため、効果なし。
事業の今後について	まちなかを回遊していただくためには、まちの雰囲気にあったサインの設置は必要であると考えており、今後設置を検討していく。

③. 旧中津川幼稚園跡駐車場整備事業（中津川市）

事業実施期間	令和3年度～令和5年度【済】 [認定基本計画：令和3年度～令和4年度]
事業概要	新町ビル跡地開発事業に合わせて駐車場を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和3年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】43人（にぎわい広場駐車場整備事業と合わせて） 【最新値】89人（にぎわい広場駐車場整備事業と合わせて） （目標達成）
達成した（出来なかった）理由	完成した建物とともに供用開始した。合計207台が駐車できるよう整備を行い、ほぼ毎日満車となっている。
計画終了後の状況及び事業効果	施設専用駐車場としての役割はもちろん、屋外イベント開催時の会場としても利用され、まちなかを訪れるきっかけになっている。
事業の今後について	車でこの駐車場に来た方が「ひと・まちテラス」に、そしてまちなかをさらに歩いて回ることができる仕組みを今後検討する。

④. にぎわい広場駐車場整備事業（中津川市）

事業実施期間	令和3年度～令和5年度【済】 [認定基本計画：令和3年度～令和4年度]
事業概要	新町ビル跡地開発事業に合わせて駐車場を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和3年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】43人（旧中津川幼稚園跡駐車場整備事業と合わせて） 【最新値】89人（旧中津川幼稚園跡駐車場整備事業と合わせて） （目標達成）
達成した（出来なかった）理由	完成した建物とともに供用開始した。合計207台が駐車できるよう整備を行い、ほぼ毎日満車となっている。
計画終了後の状況及び事業効果	施設専用駐車場としての役割はもちろん、屋外イベント開催時の会場としても利用され、まちなかを訪れるきっかけになっている。
事業の今後について	車でこの駐車場に来た方が「ひと・まちテラス」に、そしてまちなかをさらに歩いて回ることができる仕組みを今後検討する。

⑤. 空き店舗対策事業（まちづくり会社・民間団体）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	中心市街地に存在する空き店舗や所有者の調査を行いながら、所有者と出店希望者を結び付ける。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】192人 【最新値】394人
達成した（出来なかった）理由	新規出店者数が目標12件に対し、24件の出店があり、それに伴って歩行者数が増えたものと推定する。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地の空き家・空き店舗が活用されるとともに、まちを訪れる方も増加し、活性化を図ることができた。
事業の今後について	引き続き空き店舗等の活用を図ることができるよう、データベースの更新や空き店舗ツアーの開催などを実施し、活用促進させる。

⑥. 歴史的資産を活用した町家再生事業（まちづくり会社・中津川市・商工会議所・商店街ほか）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	官民が連携して中津川宿に現存する歴史的建築物を改修し、ゲストハウスや飲食店などとして活用することで、滞在、滞留する観光客数の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち調査事業（経済産業省）（平成30年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】8人 【最新値】2人（未達成）
達成した（出来なかった）理由	新規出店者数5店舗に対し、民間の自主事業として1件が整備されたのみにとどまった。
計画終了後の状況及び事業効果	民間の自主事業ではあったが、まちなかに新たなコンテンツがもたらされ、この店をめぐって来るお客さんもいるなど、効果はみられる。
事業の今後について	民間事業者に新たに1件動きがあるため、動向を見守りながら、支援が必要ならば支援を行い、出店に結び付けられるようにしていく。

⑦. トライアルショップ事業（まちづくり会社）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【実施中】
事業概要	まちづくり会社が休業日の店舗等を借り受け、トライアルショップとして活用することで、新たな出店希望者の掘り起こしと新規出店に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】32人 【最新値】16人（未達成）
達成した（出来なかった）理由	まちづくり会社の事務所を改装し、令和3年度に1件レンタルオフィスを兼ねた事務所を設置したが、適当な物件がなく、この1件のみとなった。
計画終了後の状況及び事業効果	レンタルオフィスとして6区画を設置し、現在5区画が入居している。残り1区画も引き合いがある状況であり、新たに事業を始めようとする方を後押しするとともに、まちなかを訪れる方の増加に貢献している。
事業の今後について	レンタルオフィスの需要があることがわかり、引き続き物件を探す。民間事業者に空き物件を改装してレンタルオフィスにしようとする動きもあるため、必要に応じて支援を行うこととしている。

⑧. まちなか通行手形事業（まちづくり会社）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【実施中】
事業概要	商店街での商品購入の際に、ポイントの付与や優遇特典等を手形として発行する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】43人 【最新値】0人（未達成）

達成した（出来なかった）理由	事業実施について、商店街と交渉をおこなったものの、費用対効果が十分得られないとのことで導入に至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	事業としての効果は出ていない。
事業の今後について	令和5年度に整備したデジタルマップのオプション機能を活用できないかを検討し、まちなかの通行量の増加と回遊性を高めていく。

⑨. まちなか美術館事業（中津川市）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	中心市街地の商店や公共施設等に市や団体、個人が所有する絵画を展示することで、有名な画家を多く輩出した文化のまちのイメージを高める。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】25人 【最新値】0人（未達成）
達成した（出来なかった）理由	展示場所及び方法を検討したものの、調整に時間を要したため完成まで至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	事業としての効果は出ていない。
事業の今後について	引き続き調整を行い、令和6年度中に展示実現を目指す。

⑩. 間家大正の蔵活用公開事業（中津川市）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【実施中】
事業概要	新たな観光スポットとするため、施設を改修、公開する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】34人 【最新値】7人（未達成）
達成した（出来なかった）理由	隣の本町地区にある「脇本陣森家」の1日あたりの平均来場者数17人/日と同程度の来場者を見込んでいたが、新型コロナウイルス感染症を期に来場者が大幅に減少し、その後も元に戻らず、来場者数はその1/5程度にとどまった。
計画終了後の状況及び事業効果	建物は文化財に指定されており、大きな改修はできないが、中庭を活用したカフェを出店した際には多くの来場者があった。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の影響により中止している中庭のカフェ出店を復活させ、歩行者数と施設来場者数の増加を目指す。

⑪. まちなかステーションねこのて事業（中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成27年度～令和5年度【済】
事業概要	親子を対象にした飲食の提供、母親同士のコミュニケーションの場を提供し、子育て支援の拠点となる事業である。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値	【目標値】36人

及び達成状況	【最新値】6人（未達成）
達成した（出来なかった）理由	ほど近い場所に複合行政施設「ひと・まちテラス」が完成し、その機能が補完されたため、利用者数が減少した。
計画終了後の状況及び事業効果	その役割は終えたと判断し、令和6年3月をもって閉店した。
事業の今後について	ひと・まちテラスの完成とともに歩行者通行量は倍以上となった場所にあるため、空き店舗を活用した新たな出店者を募り、新しいコンテンツをもたらし、ひと・まちテラスから歩いてまちなかを訪れるきっかけとする。

●今後の対策

新町ビル跡地開発事業（「ひと・まちテラス」建設事業）が完了し、この建物を目指して中心市街地を訪れる人の数は増えた。しかし、周辺にまでその効果は及んでいない。この効果を建物周辺からエリア全体に波及させるために、この建物から歩いてまちなかを回る仕組みを整える必要があると考える。

そのために、まちなかに新たなコンテンツの誘致や、歩きやすい環境の整備を今後検討していく。